資料－2

吹田市公共交通維持・改善計画の時点更新

吹田市公共交通維持・改善計画マスタープラン　計画の目標６：公共交通による外出頻度の増加
「指標：公共交通の分担率」の現況値を設定する。

計画の目標（現行）

目標/指標	現況（2019～2022 年度）	中間目標（2026 年度）	目標（2031 年度）
目標１：鉄道の利用者数の向上			
≫指標: 鉄道利用者数	14,297 万人/年	12,867 万人/年以上	14,297 万人/年以上
目標２：バスの利用者数の向上			
≫指標: バス利用者数	2,168 万人/年	1,951 万人/年以上	2,168 万人/年以上
目標３：公共交通ネットワークの構築			
≫指標: 公共交通による人口カバー率	95%	95%以上	95%以上
目標４：交通結節点の機能の向上			
≫指標: 乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	15 箇所	16 箇所	17 箇所
目標５：利用環境の安全性・快適性の向上			
≫指標: バス停環境整備箇所数	138 箇所	158 箇所以上	178 箇所以上
目標６：公共交通による外出頻度の増加			
≫指標: 外出頻度	67.8 %	60%以上	現況値以上
≫指標: 公共交通の分担率	新たに整理	―	現況値以上
目標７：公共交通の満足度			
≫指標: 公共交通の満足度	42%	45%以上	50%以上

目標６：公共交通による外出頻度の増加

令和元年度の市民アンケート調査では週 1～2 日程度以上の頻度で外出されている方の割合は 67.8%でした。公共交通サービスの維持と充実を図りつつ、公共交通による外出のきっかけとなる働きかけを行うことで、外出頻度や公共交通の分担率の向上を図ります。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う新しい生活様式による変化を踏まえ、今後の動向を注視する必要もあります。

■指標の設定･算定方法

・市民アンケート調査の実施により外出頻度を問い、「週 1～2 日程度」以上の頻度の回答割合によって評価します。
・公共交通の分担率は国勢調査による交通手段の情報を整理して評価します。交通手段の項目は 10 年毎の調査のため 2020 年、2030 年調査の情報をもとに評価します。

■目標の設定

・外出頻度の現況値は、令和元年度(2020 年度)に実施した基礎調査結果とします。
・5 年目は利用者の取り戻しを図り、60%以上を目標とします。
・10 年目は生活様式の変化による減少や横ばい傾向が考えられますが、吹田市の人口は 2030 年まで増加する見込みがあることを考え、現況値以上を目標とします。

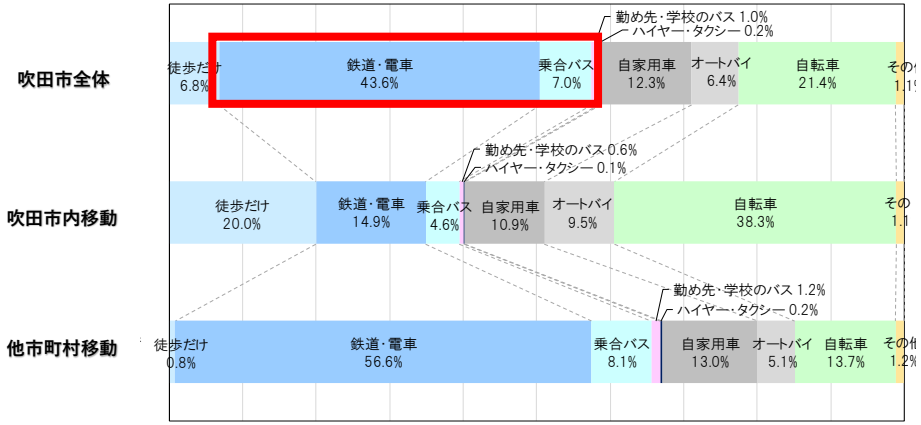
	現況（2019 年度）	中間目標（2026 年度）	目標（2031 年度）
外出頻度	67.8 %	60%以上	現況値以上

・公共交通の分担率は、現況値を 2020 年調査による数値とし、10 年目は現況値を維持することを目標とします。参考に、2010 年の鉄道・電車、乗合バスの分担率は約 50.7%となっています。

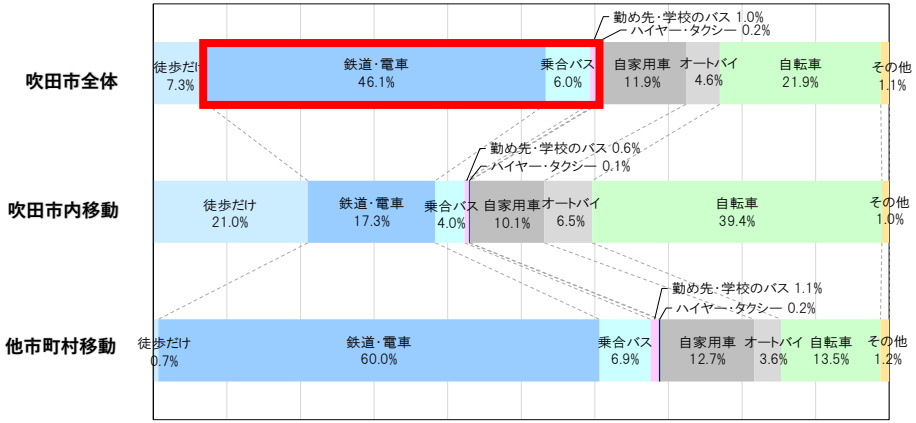
	現況（2020 年度）	中間目標（2026 年度）	目標（2030 年度）
公共交通の分担率	新たに整理※	―	現況値以上

※総務省より令和 4 年（2022 年）7 月に公表される統計資料をもとに整理する

交通手段分担イメージ



交通手段分担イメージ（2010年国勢調査より）



交通手段分担イメージ（2020年国勢調査より）

鉄道・電車	43.6%	84,237人
乗合バス	7.0%	13,574人
ハイヤー・タクシー	0.2%	386人
計	50.8%	98,197人

鉄道・電車	46.1%	91,561人
乗合バス	6.0%	11,840人
ハイヤー・タクシー	0.2%	366人
計	52.3%	103,767人

交通手段分担イメージ（鉄道・電車、乗合バス、ハイヤー・タクシー）の2010年は50.8%から2020年は52.3%となっており、これを現況値とする。2031年度（令和13年度）の目標は現況値以上とする。

計画の目標（更新後）

目標/指標	現況 (2019~2022年度)	中間目標 (2026年度)	目標 (2031年度)
目標1：鉄道の利用者数の向上			
≫指標: 鉄道利用者数	14,297万人/年	12,867万人/年以上	14,297万人/年以上
目標2：バスの利用者数の向上			
≫指標: バス利用者数	2,168万人/年	1,951万人/年以上	2,168万人/年以上
目標3：公共交通ネットワークの構築			
≫指標: 公共交通による人口カバー率	95%	95%以上	95%以上
目標4：交通結節点の機能の向上			
≫指標: 乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	15箇所	16箇所	17箇所
目標5：利用環境の安全性・快適性の向上			
≫指標: バス停環境整備箇所数	138箇所	158箇所以上	178箇所以上
目標6：公共交通による外出頻度の増加			
≫指標: 外出頻度	67.8 %	60%以上	現況値以上
≫指標: 公共交通の分担率	52.3 %	―	現況値以上
目標7：公共交通の満足度			
≫指標: 公共交通の満足度	42%	45%以上	50%以上

目標6：公共交通による外出頻度の増加

令和元年度の市民アンケート調査では週 1～2 日程度以上の頻度で外出されている方の割合は67.8%でした。公共交通サービスの維持と充実を図りつつ、公共交通による外出のきっかけとなる働きかけを行うことで、外出頻度や公共交通の分担率の向上を図ります。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う新しい生活様式による変化を踏まえ、今後の動向を注視する必要もあります。

■指標の設定･算定方法

・市民アンケート調査の実施により外出頻度を問い、「週 1～2 日程度」以上の頻度の回答割合によって評価します。

・公共交通の分担率は国勢調査による交通手段の情報を整理して評価します。交通手段の項目は10年毎の調査のため2020年、2030年調査の情報をもとに評価します。

■目標の設定

・外出頻度の現況値は、令和元年度(2020年度)に実施した基礎調査結果とします。

・5年目は利用者の取り戻しを図り、60%以上を目標とします。

・10年目は生活様式の変化による減少や横ばい傾向が考えられますが、吹田市の人口は2030年まで増加する見込みがあることを考え、現況値以上を目標とします。

	現況 (2019年度)	中間目標 (2026年度)	目標 (2031年度)
外出頻度	67.8 %	60%以上	現況値以上

・公共交通の分担率は、現況値を2020年調査による数値とし、10年目は現況値を維持することを目標とします。

鉄道・電車、乗合バス、ハイヤー・タクシーの分担率は52.3%となっています。

	現況 (2020年度)	中間目標 (2026年度)	目標 (2030年度)
公共交通の分担率	52.3%	―	現況値以上

国勢調査の結果公表に約2年かかることから、2031年度の公共交通の分担率は評価できないが、重要な指標であると考える。
今後の計画改定や新たな計画を策定する際も「公共交通の分担率」について評価していく。